

第4分科会

生涯現役、高齢期をゆたかに生きる

～いきがい、仲間づくり、社会保障ほか～

助言者 原富 悟 (埼労連議長)
司 会 広瀬ミサ子
記 録 遠藤 淑子



はじめに

この分科会は、戦中戦後生き抜いてきた高齢者が残された人生をいかに心豊かに、楽しく生きられるか、毎回提起される課題です。

しかし、政府は容赦なく高齢者に経済的不安と、憲法で保障されるべき健康的、文化的な生活がどんどん遠いものになっています。

それでもこの分科会に参加されたみなさんは、人間らしく、自分らしく生きるエネルギーに溢れていることを強く感じました。

「後期高齢者医療制度」が強行されてから一年・マスコミ各紙、テレビ、ラジオで報道されました。斉藤セツさんはTBS. テレビ朝日から取材をうけたとのこと。報道機関も無視できない問題です。

ひとりぐらしの方が4、5人参加。話し合いの一言をまとめました。

★今のところ健康だが視力・体力・歩行速度が落ちてきているのが気になる。大勢の友人に恵まれ、声がかかると出かけて楽しい時間を過ごしている。

★こどもたちと会話をしたり、カルチャーで趣味のガラス細工を楽しんでいる人。

★寝たきりの義母を10年介護し、看取りその後夫に先立たれ、ひとりで頑張っているのに何もいいことがない。

★老人介護施設で働いているが、仕事をしながら不安を感じる。認知症の施設では、40人の患者を2人のヘルパーで看するという過酷な所もあり、着替えや、髪の毛の手入れをしてあげたくてもできない。患者側から不満を言わないと改善されない。介護しながら自分の老後を考えてしまう。

★若年性痴呆症の人を友人とお見舞いにいってびっくり。狭い部屋に入れられて、人との接触もほとんどなくそんな環境におかれて良くなるのだろうか。

★老健施設「新座苑」に見学に行ってみてびっくり。全員同じ服を着せられていた。異様な雰囲気を感じた。女性としておしゃれをする自由がほしい。

★仕事を持っている人の悩みは、親の介護が必要になった場合どうするか。近所で教師をしている母親のケアができなくて仕事を辞めようか悩んでいる。介護休暇を一回とったが、代替がないため校長が許可しな

いという。働く女性の権利の問題でもあり、ネットワークを広げていく必要があるのでは。

★そのほか地域で親子リズムで絵本を読んだり、わらべ歌をうたったり、こどもたちと優しく接しながら楽しんでいる人。体力がいらないので長く続けられそう。

助言者の原富さんからは、小泉元首相の構造改革で、なんでも金の時代、高齢者が増え続けるため年金をカットし、保険料、医療費は上げる。若者が年金を払わない人が多い。払えないのが現状なのに自己責任ということにかたづけてしまう。

スウェーデンは年金、保険料は企業の負担が多い。住宅・医療教育など生きるための条件整備ができています。民主主義の仕組みが違います。学んでいきたい。フランスは貧困の格差が低く、労働の安売りはしない。社会から孤立しないようお互い助け合う。金のかかる社会から、心豊かに支え合う社会をめざそうではないか。

<申し合せ事項>

- 1 近隣、地域のネットワークを広げ、生活を豊かにし、福祉を充実させよう。
- 2 生涯現役で楽しく過ごせるよう、後期高齢者医療制度の廃止を進めましょう。
- 3 孤立した高齢者をなくしましょう。上手に話し相手を作って地域とつながり、仲間の助け合いは素直に受けましょう。
- 4 何か問題を感じたときは反対なり批判の声をあげていきましょう。

<市への要望事項>

- 1 後期高齢者医療制度の負担軽減を新座市が率先してすすめてください。

- 2 介護保険の見直しや地域福祉の充実について、住民や高齢者の意見を反映させ、市民参加をすすめてください。
- 3 最低保障年金制度の確立を国に要望してください。
- 4 医療保険、介護保険、住民税等年金から天引きはやめてください。
- 5 福祉の充実を口実に消費税増税が叫ばれていますが、特に食費など生活に関連するものに消費税をかけるのは福祉と矛盾します。消費税増税反対の声を国にあげてください。